



【長崎街道 冷水峠】(大根地神社 参拝道登り口)



根地嶽(大根地山)



冷水峠

内野宿

歴史の道百選
冷水峠

大根地山の白狐

源頼朝が建久三年(一一九三)五月に富士で参拜をしたことはあまりにも有名で、曾我兄弟の仇討とともに知らぬ人はいない。この参拜で追い立てられた一匹の白狐が逃げたも逃げた。筑紫くんだりの大根地山まで逃げてきた。大根地の権現様はこれを見てかわいそうに思い「遠い遠いこの筑紫の果てまでよくも逃げて来たものだ。さぞ疲れたことであろう。まあゆっくり寝て行け、寝て行け」と仰せになった。白狐は権現様の親切なお言葉に感激してぐっすり寝てから、もう逃げることをやめて権現様のお側に棲むようになり、お稲荷様としてまつられるようになった。

大根地山の別名を根手岳(ねてだけ)と呼ぶようになったのは、権現様の「寝て行け」とのお言葉から起ったのだということである。

『筑前国統風土記』には「竜門山三伏の古伝には、根手嶽根手権現と云」とあるから宝満山の山伏の古伝にはまた別の話があるかもしれない。

お問い合わせ
【内野宿展示館】 飯塚市内野3313 TEL 0948-72-5581

発行：飯塚商工会議所、(一社)内野地区活性化協議会



【冷水峠石たみ道】
内野宿から歩いて登る冷水峠への道には、今も石畳が残っている。



【冷水川】
旅人はこの川の冷たい水で顔を潤した。冷水峠の名のおこり。



【大根地神社】

神功皇后が、戦勝祈願に天神七代地神五代をまつた霊山であり又、源頼朝が建久三年(一一九三)富士の裾野で参拜をした時富士山に在る事、一千有余才の神通自在の一匹の白狐がこの地まできて、お稲荷様としてまつられるようになったという。明治二年京都の伏見稲荷神社の分霊を勧請し、別当稲荷神社と称される。



冷水峠首なし地蔵(オールコックの石橋)

冷水川の石橋は文政六年(一一八三)年に造られた。医師で外交官、初代英国駐日公使ラザフォード・オールコックの任命によりこのスケッチは文久元年(一一八六)年に描かれた。

